

音楽科部会

研究主題 豊かな感性をもち、自ら音楽活動を楽しもうとする生徒の育成

1 主題について

今年度も、生徒の知覚・感受を大切にした授業づくりと手立ての工夫をさらに進め、言語活動と関わらせながら、表現したり鑑賞したりする喜びを味わえる授業実践を積み重ねていくことを目指し、本テーマを設定した。

2 今年度の取組

月 日	実践内容	月 日	実践内容
4月10日	第1回総合研究会 研究主題設定・年間計画作成	10月29日	第2回総合研究会 授業研究会（矢立中学校）

3 研究内容

(1) 授業研究

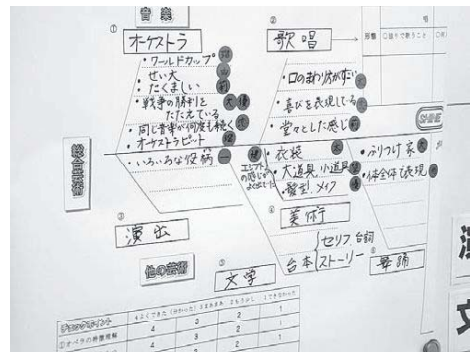
- ・期 日 平成26年10月29日（水）
 - ・会 場 矢立中学校
 - ・題材名 2年「オペラの魅力を探ろう」
 - ・授業者 吉成 崇子
- 歌劇「アイーダ」

① 授業者から

- ・オペラと歌舞伎を比較鑑賞する題材構成にしたかったが、オペラ一本にした。
- ・生徒の意欲を高めるワークシートにするため、「骨組み」があるものを用いた。生徒が書くスペースを増やすことで、自ら発見しながら進む授業にできた。
- ・アイーダの代表的な登場人物の中から本時では「民衆・司祭」「エジプト王」「アムネリス」を用いたがこれでよかったのか。今後六重奏などのアンサンブルの魅力も伝えたい。
- ・自分の予想以上に生徒が感じ取ってくれた。

② 協 議

- ・生徒はとても主体的に頑張っていた。活動の前に「何をするのか」という明確な指示があればよかった。
- ・課題追究1をしっかりと理解した上での課題追究2だが、追究1で生徒全員がおさえられたのか。
- ・音楽から得たのではなく、知的な理解から言葉が出てきているように思う。
- ・グループ活動の見取りや支援がもっとあってもよかった。
- ・すぐ必要な部分を再生できる音源の準備が必要。
- ・課題追究1で生徒全員が達成してから課題追究2にいくと思っていた。もう少し、場面や着目すべき点を絞ると分かりやすくなったかもしれない。
- ・オペラは音楽と映像の両方が必要である。歌手の表情などの表現の工夫も見せたい。



【知覚・感受を助ける掲示の工夫】

- ・指導案に授業者の思いは表れていたが、生徒の発言として表れなかった。発問をシナリオ化してみるとよい。
- ・ワークシートはどこに何を書くかが明確で、分かりやすかった。
- ・「オペラの魅力を探ろう」という題材であれば、教師が「オペラの魅力」とは何かを明確にした上で、何を知覚・感受させ、何を味わわせたいのかを考えることが大事。
- ・題材構成の他の例として、歌舞伎との比較鑑賞を通して、日本芸術との違いを感じ取らせたり、表現力を学ばせたりする場合もある。

(2) テーマ研究

1 1月の全県音楽教育研究大会の授業者による模擬授業と協議を行った。

(3) 指導助言（北教育事務所鹿角出張所 指導主事 田中 覚）

- ・生徒が1時間を通して意欲的に鑑賞の学習に取り組んでいた。特に映像を視聴する場面では画面に引き込まれていた。オペラは音楽と映像を通して鑑賞させたい。
- ・学習シートが工夫されていた。登場人物の心情と音楽的な特徴が対応してまとめられるものになっていた。
- ・教具や資料が適切に準備されていた。（登場人物の写真、プロジェクター等）
- ・展開の前段で学び方を学んだ上で、グループで学ぶという手立てがよかった。
- ・グループで発表したものを、全体で音で確認したことがよかった。最後に音楽を通して課題を解決するという視点がよい。
- ・「ねらい」「学習活動」「評価」の整合を図りたい。本時は、ねらいと評価は整合していたが、学習活動はねらいを達成できるものであったか。本時のねらいは鑑賞イの内容だが、学習活動は鑑賞アの内容だった。本時で鑑賞アの内容を学習し、次時で鑑賞イの学習につなげていく方法もあったのではないか。
- ・〔共通事項〕アの学習を大切にしてほしい。〔共通事項〕アは音楽を形づくっている要素そのものではなく、知覚・感受の学習のことである。学習の支えになるように位置付けたい。
- ・教材研究を大切にしてほしい。教材曲の音楽的なよさや美しさ、価値はどこにあるのか、また、それが音楽を形づくっている要素のどんな働きによって生み出されているのかなど教師がしっかりと把握しておくことが大切である。そして、生徒が自らそのことに気付くことができるようにするための手立てを工夫したい。そのことによってねらいが一層明確になってくるのではないかと思う。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・教材や教具を適切に使うことで、生徒が1時間主体的に活動していた。
- ・グループでの話し合いだけで終わらず、音で確認することができ、ねらいに迫ることができた。

(2) 課題

- ・指導事項をしっかりとおさえ、学習活動を組み立てることが必要。またその際には、発問を吟味することが求められる。それが知覚・感受、ねらいの達成につながる。